# めいろうこどもえん　１１月園だより

## ２０１６年度　年主題〈『平和』をつくる〉

**0･1･2歳児　１１月主題　「いっしょに」**

*月のねがい*

◎保育者と一緒に賛美する
◎体を動かす遊びを楽しむ
◎見えない神様の存在を感じ、礼拝する
◎生活の場が広がり様々な人と交わる

**3･4･5歳児　１１月主題　「共感」**

*月のねがい*

◎豊かな秋の実りを喜び神様に感謝する
◎秋の自然物にふれ調べたり試したり食べたりして季節を感じる
◎気持ちや考えを伝え合いわかちあいながら友だちと過ごす
◎いろいろな人の働きを心にとめる

## 今月の聖句

「主よ、わたしの魂はあなたを仰いでいます。」

詩篇25篇1節

私たち人間は神によって創造され、育（はぐ）まれ、成長させていただいています。私たちの心がいつも神に聞き、祈っているという意です。「仰ぐ」とは仰る（おっしゃる）とも読みます。つまり、呼びかける･応えるという祈りと同義語です。祈りは聴くことと、訴える･願うことの双方向性が必要です。願い事ばかりの祈りはついわがままになってしまします。お願いの前に心静かに神の声を聴くことが大事です。では、神の声･言葉はいかにして聴きますか。

人類史５０００年の叡智と霊言である「聖書」があります。全巻６６の書があります。歴史書･詩歌･預言書と律法の書があります。聖書は色々な時代に、色々な人に神が啓示され、文書としてまとめられ保存されたものです。どの書物より普遍的で心の栄養となります。愛読書の一つとして書斎におき、朝夕お読み（だ）さることをお勧めします。

おわりに聖句の1節を引用します。「聖書は全て、神の霊感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練のために有益です。（テモテへの第２の手紙３章16節）

前理事長　池田公榮

## １１月の行事予定

| | |
|---|---|
| ８日（火） | ふれあいあそび |
| ９日（水） | 弁当日 |
| １５日（火） | １１月誕生会 |
| １６日（水） | 牛見学 |
| １９日（土） | 入園説明会１１時～ |
| ２４日（木） | クリスマス会予行 |
| ２５日（金） | 弁当日 |

## １２月の行事予定

| | |
|---|---|
| ３日（土） | クリスマス会（弁当日） |
| ８日（木） | もちつき大会 |
| １２日（月） | 絵本の会クリスマス公演 |
| １３日（火） | １２月生まれ誕生会 |
| １４日（水） | 弁当日 |
| ２０日（木） | クリスマスバイキング） |
| ２１日（水） | 終園式 |
| ２８日（水） | 御用納め |

**2017年度入園説明会**
***１１月１９日（土）13時より***
**1号入園願書受付開始**
***１２月１日（木）***
ご紹介を何卒宜しくお願いします！

クリスマス会

もちつき大会

うんどう会

おいもほり

遠足～あっぽーりんご

牛見学

## 子どもの育ちはカラダから

秋口より、次から次へと襲来した台風群でしたが、ここに来て少し落ち着いた様子です。その間隙を縫って、運動会、いもほり、遠足、すもう大会と、今年はなぜか好天に恵まれて感謝でした。心地良い晩秋の日々を、身も心も弾ませて子どもたちと楽しみたいと思います。

運動会やすもう大会と、運動系の行事を経て、子どもたちの身体の使い方もかなり活発になってきました。しかし、ここ数年、子どもたちの身体的変化も気になるようになってきました。身体の軸が不安定で、よく転んだり、転んでも手が出ず顔をケガしたりすることもあります。東京都の調べによると、幼児の一日の歩行数の減少はこの三十年で約三分の一と明らかになっています。そのため、長時間の歩行どころか、中には数分間立っていることさえできない子どももいるとか。昔と比較して、屋外での遊びやスポーツを行う機会が減ったり、家庭環境の変化もからだの機能を低下させてしまう要因となっています。「正座・床の生活からテーブル・椅子の生活へ」「和式トイレから洋式トイレへ」「徒歩・自転車から車・バス・電車などの交通機関が便利に」本来、乳幼児期の自然な成長や遊びの中で培われてきた関節機能が、現代ではきちんと使われないまま、高度なスポーツを行うなどし、足指の変形や関節痛を訴える子どももいるようです。

先日、「子どものカラダ教育」という講習を受ける機会がありました。プロスポーツ選手のトレーナーや身体ケアの専門家である平山昌弘氏による子どもの身体の発達やケアについての講義です。氏は足裏診断によって子どもの身体のクセを知り、足の裏のセンサーを鍛えること、また呼吸機能を高めることの大切さを教えていただきました。足の裏には「メカノレセプター」と呼ばれる部分があり、立位バランスにおいて最初の情報を得るところです。このメカノレセプターが発達していないと、体がどういう状態になっているか脳に伝達されにくくなり、脳も適切な指令が出せないということになります。そこで、日常生活であまり得られない不安定な場所で歩くことや手足の関節の柔軟性や足裏への刺激を与えることが大切になってくるわけです。園で取り組んでいる朝のサーキット遊びによる波形の平均台や飛び石歩き。雲梯や太鼓橋、クライミングやのぼり棒などが非常に有効だそうです。家庭でも、積極的に足の指を使った遊びをお勧めします。足指じゃんけんや手を使わずに足だけで靴下を脱ぎ、脱いだ靴下を足の指で拾い上げたりする、椅子に座ってタオルを足指で寄せたりするなどの遊びが効果的だそうです。

急に肌寒さを感じはじめたこの頃です。突然の発熱も多くみられる時期。なるべく薄着を心がけ、うがいや手洗いの励行を続けて冬に備えて体を鍛えていきましょう。

園　長

## 大きな行事を乗り越えた後は・・・

運動会、遠足、おすもう大会と大きな行事が目白押しだった10月。　保護者の皆さんには、たくさんのお手伝いやご協力をいただき誠にありがとうございました。

お稽古の続く日々の中、遊ぶ時間が少なくなったこと、マーチングの楽器選びのわくわく感、かけっこ一番への期待と不安など、家庭でも子どもたちの声や思いを受け止めて励まして下さったことを耳にしました。その度に、園と家庭が信頼をもって連携を図ることの大事さを感じました。同じ気持ちで一緒に支えていくことが、何より心の安定につながり、安心して園に通える力になっているのだと改めて思うことでした。そして、こうして陰で支え送り出して下さっていることに心から感謝です。

さて、行事が終わり、園では運動会ごっこやお絵かきを楽しんでいます。運動会ごっこでは、もも組さんが「ハッハッハッ！」と開会式前のかけ声を出したり、それぞれにやりたかった野外劇の役を踊ったりしています。お絵かきは、一人一人のつぶやきを聞ける面白い時間でもあります。例えば、「あたし、クールになりたいの。」「ここに、ぬる線を書きたいけど描けないんだよな･･」と、結局最後までぬる線って何なのかわからずじまいだったり。

体をたくさん使った行事を終え、とても過ごしやすい季節の中でさらにパワーアップしそうです。

さあ、体を思いっきり動かす動の季節から、静かに心を込めて表現する静の時間に変わります。子どもたちの心の動きにも変化が現れてくることでしょう。そんな機微の変化を味わう時間も共に分かち合いたいと思います。

森　山

## 非認知能力とは②

生のあらゆる場面に深くかかわる非認知能力は、その人らしさの土台を形成する重要な要素といえます。かつては非認知能力に含まれる力や姿勢は、気質や性格と考えられがちでした。例えば、どれだけ我慢できるか、社交的に振る舞えるか、楽観的に考えられるかといったことは、生まれ持ったものと考える人は多いかもしれません。

しかし、現在の研究では、非認知能力は意図的に育てられると考えられています。例えば、子どもが何かにチャレンジしている時、周囲が「がんばればできるよ」「皆が応援しているよ」といった前向きなメッセージを送れば、「もっとがんばろう」という思いが強まるでしょう。そして成功した達成感により、「次もあきらめずにやり遂げたい」という気持ちになるはずです。また、社会性にしても、幼い頃から他の子どもとかかわる機会を多く持たせて、一緒に遊んだり、時にはけんかして仲直りをしたりする経験を積み重ねる中で、人とコミュニケーションをしたり、協力したりする力や姿勢は伸びていくと考えられます。

非認知能力の育成に力を注ぐのは、小学生になってからでも遅いわけではありませんが、できるだけ早期に始めるのがよいと言われています。理由のひとつは、そのほうが非認知能力が効率的に伸びると期待されていることです。非認知能力は、「雪だるま式」に大きくなっていくという研究成果があります。ある決められた時間までにできるだけ大きな雪だるまを作るためには、できるだけ早い時期に作り始めればよいのは自明です。それと同じように、早い時期から非認知能力を意識しておくと、時間が経過するほど加速度的に高まり、非常に有利に働きやすいと考えられています。

例えば、幼児期にがんばる力やあきらめない姿勢が十分に伸びている子どもは、小学生になって勉強が難しいと感じてもコツコツと根気強く学び続けるでしょう。そして勉強がわかるようになった喜びが自信につながったり、「もっとがんばろう」といった気持ちになったりして、非認知能力はさらに向上していきます。

次に、非認知能力は「遊び」の中で育ちやすいことが、幼児期に育成することが適している理由です。非認知能力は、誰かに「やらされる」活動ではあまり育ちません。一方、自分から主体的にする活動では、「もっと上手になりたい」「こんな工夫をしてみよう」「あの人に協力してもらうとうまくいきそうだ」といったアイデアが次々に浮かびます。幼児期の遊びは、それこそ主体的な活動です。砂場遊びやごっこ遊びをする子どもがユニークな発想によって遊びをどんどん展開させていく姿に驚いたことがあるかたは多いでしょう。そうした主体的な遊びや活動を通して、非認知能力は効果的に高まっていくのです。

「これからの幼児教育」ベネッセ教育総合研究所　より